

2. 連結財政状態に関する定性的情報

【資産、負債、純資産の状況】

(単位：億円)

	2008年度 第2四半期 (2008年9月末)	2007年度 (2008年3月末)	増 減	ご参考 2007年度 第2四半期 (2007年9月末)
資産の部				
流動資産	20,312	21,699	▲ 1,386	23,973
（受取手形及び売掛金）	(8,442)	(10,179)	(▲ 1,736)	(9,447)
（たな卸資産）	(4,225)	(3,831)	(394)	(4,319)
固定資産	15,488	16,520	▲ 1,031	18,027
（有形固定資産）	(7,982)	(8,397)	(▲ 415)	(8,849)
（投資その他の資産）	(5,284)	(5,927)	(▲ 642)	(6,865)
資産合計	35,801	38,219	▲ 2,418	42,001
負債の部				
流動負債	17,158	16,113	1,045	18,530
（支払手形及び買掛金）	(6,228)	(7,721)	(▲ 1,492)	(7,760)
（短期借入金及び1年内社債）	(4,848)	(1,602)	(3,245)	(3,423)
固定負債	7,593	10,804	▲ 3,210	12,211
（社債及び長期借入金）	(4,256)	(7,271)	(▲ 3,014)	(7,746)
負債合計	24,752	26,917	▲ 2,165	30,742
純資産の部				
株主資本	9,103	9,116	▲ 13	8,584
評価・換算差額等	87	365	▲ 277	930
少数株主持分	1,857	1,819	38	1,744
純資産合計	11,049	11,301	▲ 252	11,258
負債純資産合計	35,801	38,219	▲ 2,418	42,001
現金及び現金同等物の期末残高	5,544	5,478	66	7,857
有利子負債残高	9,105	8,873	231	11,170
ネット有利子負債残高	3,560	3,394	165	3,313
自己資本	9,190	9,482	▲ 291	9,514

【キャッシュ・フローの状況】

(単位：億円)

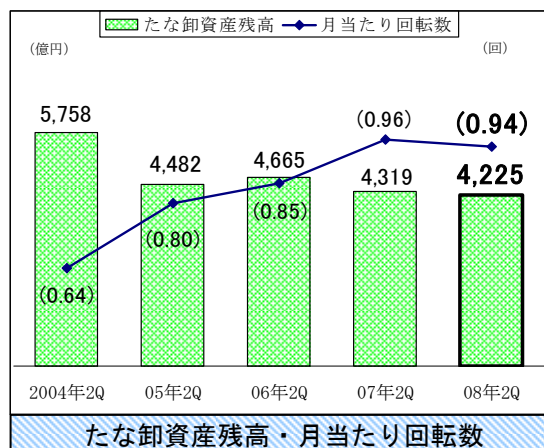
	2007年度 第2四半期累計 〔2007年4月1日～ 2007年9月30日〕	2008年度 第2四半期累計 〔2008年4月1日～ 2008年9月30日〕	前年同期比
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前四半期純利益	182	298	116
減価償却費／のれん償却額	1,346	1,449	103
投資有価証券売却損益（▲は益）	▲ 116	▲ 29	86
たな卸資産評価損	250	-	▲ 250
売上債権の増減額（▲は増加）	1,119	1,970	851
たな卸資産の増減額（▲は増加）	▲ 455	▲ 363	92
仕入債務の増減額（▲は減少）	▲ 504	▲ 1,623	▲ 1,119
その他	▲ 301	▲ 481	▲ 180
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,520	1,221	▲ 299
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産の取得による支出	▲ 1,449	▲ 879	570
投資有価証券の売却による収入	401	123	▲ 277
その他	▲ 271	▲ 386	▲ 115
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 1,319	▲ 1,142	177
I+IIフリー・キャッシュ・フロー	200	79	▲ 121
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	3,152	▲ 96	▲ 3,249
IV 現金及び現金同等物の四半期末残高	7,857	5,544	▲ 2,312

(1) 資産、負債、純資産の状況

当第 2 四半期連結会計期間末の総資産残高は 3 兆 5, 8 0 1 億円と、前年度末比 2, 4 1 8 億円減少しました。流動資産は前年度末の高いレベルの売掛金を回収したことなどで前年度末比 1, 3 8 6 億円減少しました。たな卸資産は 4, 2 2 5 億円と、今後の売上に対応するためサービス部門を中心に前年度末比 3 9 4 億円増加しました。前年同期末からは 9 3 億円減少しましたが、為替による減収影響もあり、資産効率を示す月当たり回転数は 0. 9 4 回とほぼ前年同期末並みとなりました。固定資産は、第 2 四半期末における上場株式の急激な時価下落により投資その他の資産が前年度末比 6 4 2 億円減少しました。

負債残高は 2 兆 4, 7 5 2 億円と、売掛金同様高いレベルであった前年度末の買掛金の支払いなどにより前年度末比 2, 1 6 5 億円減少しました。有利子負債は 9, 1 0 5 億円と、前年度末比 2 3 1 億円増加しました。社債は償還などにより 4 1 6 億円減少しましたが、借入金が運転資金の調達などで 6 4 8 億円増加しました。D/E レシオは 0. 9 9 倍、ネット D/E レシオは 0. 3 9 倍となりました。2 0 0 9 年 5 月に償還期限を迎える転換社債の償還資金 2, 5 0 0 億円については前年度の転換社債の発行等による調達資金を安定運用しています。

純資産は 1 兆 1, 0 4 9 億円と、上場株式の時価下落などによる評価・換算差額等の減少により前年度末比 2 5 2 億円減少しました。株主資本は 9, 1 0 3 億円とほぼ前年度末並みでした。四半期純利益 4 6 億円を計上したほか、重要性の低かった孫会社についても原則として連結対象としたことにより期首の利益剰余金が 7 0 億円増加しましたが、期末配当を 1 株当たり 2 円増配し 1 0 3 億円を支払いました。この結果、自己資本比率は 2 5. 7 % と、前年度末比 0. 9 ポイント上昇しました。



(2) キャッシュ・フローの状況

当第 2 四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは 1, 2 2 1 億円のプラスとなりました。前年同期比では、運転資本等の支払いの増加などにより 2 9 9 億円の収入減となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは 1, 1 4 2 億円のマイナスとなりました。主として設備の取得によるものです。前年同期比では 1 7 7 億円の支出減となりました。前年同期は三重工場 3 0 0 mm ラインの取得に伴う支出があったため、有形固定資産の取得による支出が 5 7 0 億円減少した一方、前年同期には関連会社株式等の売却収入 4 0 1 億円があったことによるものです。

営業活動及び投資活動によるキャッシュ・フローを合わせたフリー・キャッシュ・フローは 7 9 億円のプラスと、前年同期比 1 2 1 億円の収入減となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、社債の償還 8 1 9 億円などがありましたが、増加した運転資金の一部を短期借入金や社債発行で調達したことにより 9 6 億円のマイナスとなりました。前年同期には転換社債 2, 0 0 0 億円及び普通社債 1, 0 0 0 億円の発行による収入があったほか、当期は期末配当の増額による支出増があり、前年同期比では 3, 2 4 9 億円の収入減となりました。

新規連結による増加もあり、現金及び現金同等物の期末残高は 5, 5 4 4 億円と前年度末比 6 6 億円増加しました。

(ご参考) 財務指標

	2008年度 第2四半期 (2008年9月末)	2007年度 (2008年3月末)	増 減	2007年度 第2四半期 (2007年9月末)
D/E レシオ	0.99 倍	0.94 倍	0.05 倍	1.17 倍
ネット D/E レシオ	0.39 倍	0.36 倍	0.03 倍	0.35 倍
株主資本比率	25.4 %	23.9 %	1.5 %	20.4 %
自己資本比率	25.7 %	24.8 %	0.9 %	22.7 %

注 1) D/E レシオは、有利子負債残高 ÷ 自己資本により算出しております。

注 2) ネット D/E レシオは、(有利子負債残高 - 現金及び現金同等物の期末残高) ÷ 自己資本により算出しております。